

INDEX

ことば徒然  
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

よだれは年齢や季節によって出方が変わります。  
小学校に入学してもひどい場合は、問題です。  
口の周囲の筋肉の働きが弱い場合  
舌の突出が強い場合などが考えられます。  
よだれをふき取るハンカチをいつももたせて、自分でふき取る習慣を  
つけることが大切です。  
また、口の周囲の筋肉の力、舌の筋肉の力を強くすることも大切です。

言語性を伸ばす指導

絵カードにはいろいろあります。  
次のように分けています。  
・50音に分けてある絵カード。  
これは、発音の練習で単語レベルまで指導してきた子どもにつかいます。  
・食べ物や乗り物、日用品、動物などの名前をあらわす絵カード。  
食べ物の絵カードでその色や好きな果物や嫌いな野菜を聞いていきます。  
色や好き嫌いをつけると2語文、3語文になります。  
・公園や遊園地、山、海などの場所や上下左右など位置を表す絵カード。  
・家族や店屋の人、お医者さんや看護師さん、おまわりさん、消防士さんなど、人やその人の仕事をあらわす絵カード。  
・桜やチュウリップ、ひまわりなどの花、雪だるまなど季節や時をあらわす絵カード。  
・飲む、食べる、乗る、座るなど、うごきを表す絵カード。

- ・笑っている顔、泣いている顔、苦しんでいる顔、おこっている顔など表情を表す絵カード。
- ・登校し、ランドセルをロッカーにしまい、学習し、休み時間に遊び。給食を食べる学校生活の場面をあらわした絵カード。
- ・家に帰り、宿題をし、習い事に行き、夕飯の準備をし、夕食を食べ、歯を磨き、寝る家庭生活の場面をあらわした絵カード。
- ・ウサギと亀が競争して亀が勝つお話の展開をあらわした配列絵カード。

子どもの言語発達に応じて使い分けています。

＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/

漂泊鳥から

ツバメが飛んでいます。

いつもの場所に巣を作っています。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/＿/

=====  
ことばだより No.69

ことばのもり 2003.4.14

=====  
INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

指しゃぶりは3ヶ月ころからはじまります。

これが長く続くと、歯のかみ合せにすき間ができることがあります。

そのすき間に舌をはさんでしまう癖がつく場合があります。

その癖がつくと発音に誤りが出てくる場合があります。

だから指しゃぶりをやめさせよう、と言うものではありません。

指しゃぶりで不安を表現しているのかもしれない。



INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

筋肉の働きにより、舌が形を変え、位置を変え、音を作ります。  
舌を動かす筋肉は一つではありません。  
おおきく分けると、内舌筋と外舌筋の二つに分けられます。  
この筋肉の協応運動によって、音が作られます。

発音に誤りのある子たちの中に、舌筋の協応運動を誤って学習した子がいます。  
ことばの教室では、誤った舌筋の協応運動を正しい協応運動にかえていきます。

言語性を伸ばす指導

4月がスタートしました。  
新しい学年のスタートです。

これからは、教材を使い、何ができるか、子どもの何を確かめることができるか、ま  
めてみようと思います。  
一度記事にしたことと同じ内容になるかもしれませんが・・・。

まずは絵カードです。  
絵カードにはいろいろあります。  
教育相談で使う絵カードは、自作でもいいと思います。  
ただ、発音の誤りを確かめることのできることばの絵カードでないといけません。  
音数の少ないことばのほうが発音の誤りは確かめやすいです。  
しかし、音数が増えると舌の動きが未熟でいえなくなる子どもがいます。  
聞こえに問題があり、復唱できない子もいます。

ネーミングや復唱させながら、確かめていきます。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

風の手が

枝を揺らして

花踊る

4月に教室の窓から外を見ていて・・・

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

=====  
ことばだより No.67

ことばのもり 2004.3.31

=====  
INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

発音するための大切な器官の一つに舌があります。

形を変え、位置を変えることで、声道に狭めや閉鎖を作ります。

ここに肺からの呼気が通ることで、音を作ります。

教育相談では、かならず舌の動きを検査します。

舌を前後、左右、上下に動かすことができるか検査します。

その舌の動きも発達の中で獲得されます。

2才代では、舌を前に出し、下唇をなめることができ

3才代では、舌を左右の口角に動かすことができ

4才代では、上唇をなめることができはじめます。

下唇で舌先をあげている子がいました。

舌先を上唇にあげるときは、かならず下の歯が見えていることを確認します。

言語性を伸ばす指導

絵カードを見せて、

「なにをしていますか？」

と問います。

「てを あらっています。」

と答えるでしょう。

「で」と「を」のひらがな文字を見せて、

「きょうは、これを使って文作りをします。

なにで てをあらっていますか？」

と問います。

「みずで」

と答えたら

「文にしてみるよ。

てを みずで あらっています。

みずで てを あらっています。」

「で」と「を」の文字を見せながら文を作ります。

このあと、ほかの絵カードをつかって、練習します。

\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/

漂泊鳥から

3月26日 開花宣言

つぼみが膨らみかけてから、咲くのを待っていました。

\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/

=====  
ことばだより No.66

ことばのもり 2004.3.24

=====  
INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

お気づきでしたか。

前前号から、言語性を伸ばす指導はお母さんへの話しになっています。

幼児期の子どものことばを育てるのは、子どもの一番近いところにいるお母さんなんです。

幼稚園や保育園の集団生活からも刺激は受けてきます。  
しかし、それだけにまかせていたのでは、子どものことばの問題は解決しません。  
ことばの教室で指導を受けただけでも改善しません。  
家で子どもとむかいあい、ひらがな文字を読み、書くことを通して  
母子の関係を作りなおすつもりで取り組むことが必要です。  
ことばの教室はその取り組みの舵取りの役目をするだけです。

### 言語性を伸ばす指導

会話では、助詞を使わなくても通じます。  
誤って使っても通じます。  
しかし、ここにもう一つ条件が加わると、話しは通じにくくなります。  
たとえば、

- ・自分だけの経験を話すときに
- ・はじめての人と話すときに
- ・たくさんの人の前で話すときに
- ・話すスピードが速くなると
- ・発音に誤りがあると
- ・長く話すと

などの条件が重なると、通じにくくなります。  
ことばの教室では、先生と子どもとの間でことばの問題が改善するように  
取り組みます。  
家庭では、親御さんと子どもとの間でことばの問題が改善するように  
取り組んでください。  
そうすることで、問題の改善に一步近づきますから。

\_\_\_/

漂泊鳥から

卒業式がおわりました。

式では6年生の一番いい顔を見ています。

\_\_\_/

ことば徒然  
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

3才代の子どもは、自分の世界を表現しはじめます。  
お母さんやお父さん、身近にいる大人に自分の表現を理解してもらえたら喜びます。  
同年齢の子どもも求めはじめます。  
しかしまだ、集団生活に対応できるほど発達はしていません。  
身近にいる大人が、子どもと対一の関係を作ることが必要です。  
そこで子どもの表現を受け入れ、いっしょに楽しい時間を過ごすことです。  
身近にいる大人との関係に支えられて、友達の中に入っていきます。

言語性を伸ばす指導

指導のあと、お母さんに話します。

きょうは

何をしていますか？

という問いには

～をしています。

と答えるように指導しました。

日記を書くときだけでいいです。

「何をしていましたか？」

の問いに、

「～をしていました。」

と答える練習をして見てください。

そして書くようにしてください。

次回は「～で」を指導します。

はさみで かみを きります。

せっけんで てを あらいます。

くれよんで えを かきます。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

一日天気の良い日でした。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

INDEX

ことば徒然  
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

作文を書けない子どもがいます。  
その理由はいくつか考えられます。  
文字を書くことを苦手にしていたらどうでしょう。  
視知覚の発達や手の巧緻性が育っていない子は、書くことが苦手です。  
1年生の授業では、ひらがなを習得した後、かたかな、漢字と苦手な課題が続きます。  
また、かたかな、漢字を習得するために、宿題が出ます。  
さらに日記で「正しく使えるように」と子どもに求めます。  
しかし、  
休み時間に「がんばってるね」と声をかける  
かたかなや漢字の学習中に、ていねいに書けていることをみんなの前で評価する  
漢字の宿題のますを大きくし、書きやすいように配慮する  
宿題のノートに「よくできました」と一言書く  
ことで、作文を書きたがらない子どもの反応もずいぶんちがってきます。

言語性を伸ばす指導

子どもがテレビを見ている絵カードを用意します。  
「この子は何をしていますか？」  
と聞きます。  
「テレビ みてる」  
と答えが返ってきました。  
「この前はそのまま書いたね。  
きょうはもう一つ勉強するよ。」  
「なにを」と聞かれれば、「～を」をつけてね。  
「テレビ みてる」でもわかりますが、

「なにをしていますか」と聞いたから、  
「てれびを みてる」と答えてね。  
このあと「何を」の問いに答える練習をします。  
いくつかの絵カードを見せて、  
「なにを していますか？」と問い  
「かみを きってる」  
「みかんを たべてる」  
「てを あらってる」と答える練習をします。  
そして原稿用紙に書きます。

\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/

漂泊鳥から  
やはり冬でした。

\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/\_\_\_/

=====  
ことばだより No.63

ことばのもり 2004.3.3

=====  
INDEX

ことば徒然  
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

乳児期の終わりごろになると、  
自分のことを「 ちゃん」と名前で呼ぶようになります。  
それから、自分がいつも遊んでいるおもちゃを「 ちゃんの」と言うようになります。  
自分のものであることを主張しはじめます。  
しばらくすると、自分のおもちゃを人が使っていると、  
「 ちゃんの」といっておこりだすこともあります。  
自分の場所として、お母さんのひざの上に兄弟がすわれば、  
おこりだすこともあります。  
「自分の世界」をことばで表現し始めます。  
このころから、だだこねも出始めます。  
また、同時に自分より小さい子に関心を示し始めます。

## 言語性を伸ばす指導

ひらがな文字を読みはじめると、次は書くことに取り組みます。  
ひらがな文字を読むときと同じように、行ごとに書く練習をしていきます。  
ほぼ書けるようになると、次は「日記」を書くように練習します。

「朝、家で何をしていた？」

と聞きます。

「マンガ、みてた」

と答えれば、それを原稿用紙に書きます。

まんがみてた

「よくできました。

ひらがなを覚えたから、話したことを書けたね。

がんばったね。

文の終わりには、必ず「。」をつけてね。」

と子どもに声をかけます。

そのあと、

「日記を書かせてあげてください。

短い文でいいから書かせてあげてください。

一日の出来事のひとつにしぼって、お母さんが聞いてあげてください。

子どもがそれに答えて、それを書くようにしてください。

たとえば、

きょうは、だれとあそんだの？

くん

くんとどうしたの？

あそんだ

とやりとりのあと、書くようにしてください。

ひらがな文字のまちがいを訂正するだけでいいです。

書いたことをほめてあげてください。」

とお母さんに話します。

\_\_\_/

漂泊鳥から

学校に行く途中にある池で

水鳥が魚を食べていました。

\_\_\_/

INDEX

ことば徒然  
言語性を伸ばす指導

ことば徒然

小学校の生活は、朝の会、学習、休み時間、給食、掃除、終わりの会と時間が区切られています。

決められた時間があります。

保育園や幼稚園と比べると、時間ごとにどんどん変化していきます。

ある子どもには、変化があつて、楽しいかもしれません。

いっぽうで、その生活リズムに慣れるまでたいへんな子どももいます。

1年生の学習を少しずつ今からしておけば、学校生活に慣れるまで時間がかかっても、学習の方は安心できます。

休みの日に小学校への道のりを歩いてみたり、

45分単位で区切りをつけて過ごしてみたり、

昼ご飯の準備を手伝ってもらったり、

掃除をいっしょにしてみたり、・・・。

一日楽しく過ごせそうに思います。

学校に入学してから、学校生活のリズムを一から身につけるのではなく、

学校生活のリズムに慣れるという意味で休みの日にやってみると楽しいように思います。

言語性を伸ばす指導

文を書いても

「何を書いているのかわからない」

と評価されてしまい、書くのをいやがる子がいます。

確かにその子が書く文は

主語と述語が対応していなくて、

助詞の使い方、

修飾語の使い方、

接続詞の使い方が誤っています。

教科書を読んで、

「だれが、出てきましたか？」

「その人が何をしたのですか？」

と問います。

その答えをつないで、短い文で表現するように指導します。

短い文をつなげることで、主語と述語が対応していないことに気づきやすくなります。

助詞の誤りも少なくなります。

\_\_\_/

漂泊鳥から

まだお水取りはすんでいないというのに

ずいぶん暖かい日が続きます。

\_\_\_/

---

ことばだより No.61

ことばのもり 2004. 2.18

---

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導

ことば徒然

はじめは、絵カードをお菓子の箱に入れていました。

使いやすいように、運びやすいようにと自分で作りはじめました。

白表紙、ダンボール紙を使い、つくります。

絵カードの大きさにあわせて箱をつくります。

いろいろ工夫しながら、いろいろ作りました。

ことばの教室では、誤った発音をただしていきます。

その子にあった方法で改善していきます。

いろいろ試しながら、改善を図ります。

この過程は、絵カードをしまう箱づくりと似ています。

手作りのよさです。

アートの部分です。

言語性を伸ばす指導

書くことが不得意な子がいます。  
まとまらないのが原因の一つのようです。  
書いたのを読むと、  
助詞の使い方が誤っていたり、  
いつのまにか、主語と述語が対応しなくなったりしています。  
書いているうちに、ごちゃごちゃしてくるらしい。  
一文が長すぎるようです。

読みながら

「これはどういうこと？」

と聞いていると、伝えたいことがみえてきます。

「短く書こう」

と言って、はじめの部分はモデルを示すつもりで、書いていきます。

「続きは書いてごらん」

と言って書いてもらいます。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／

漂泊鳥から

風がうなっています。

季節はずれの台風のようです。

＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／＿／